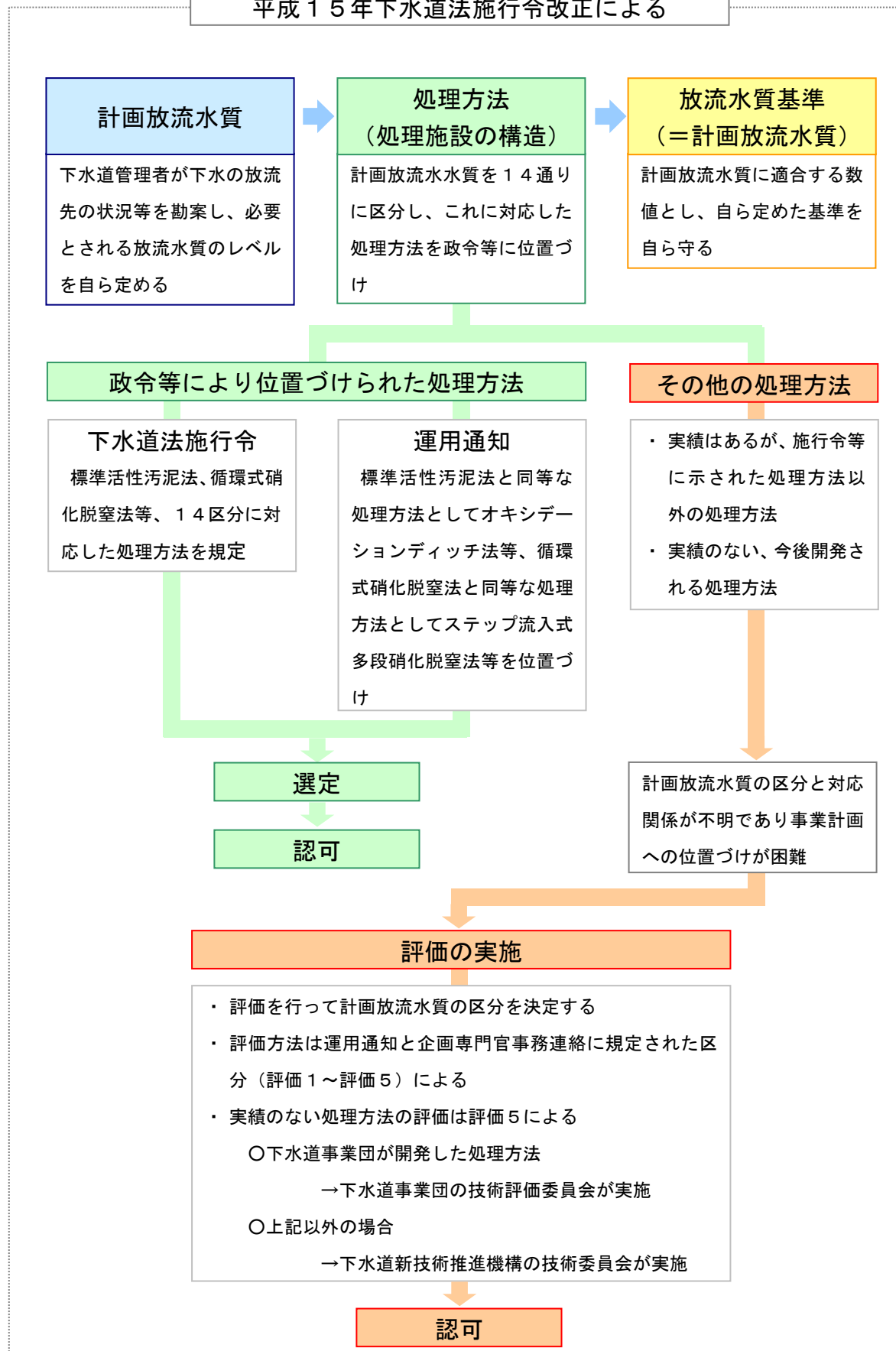
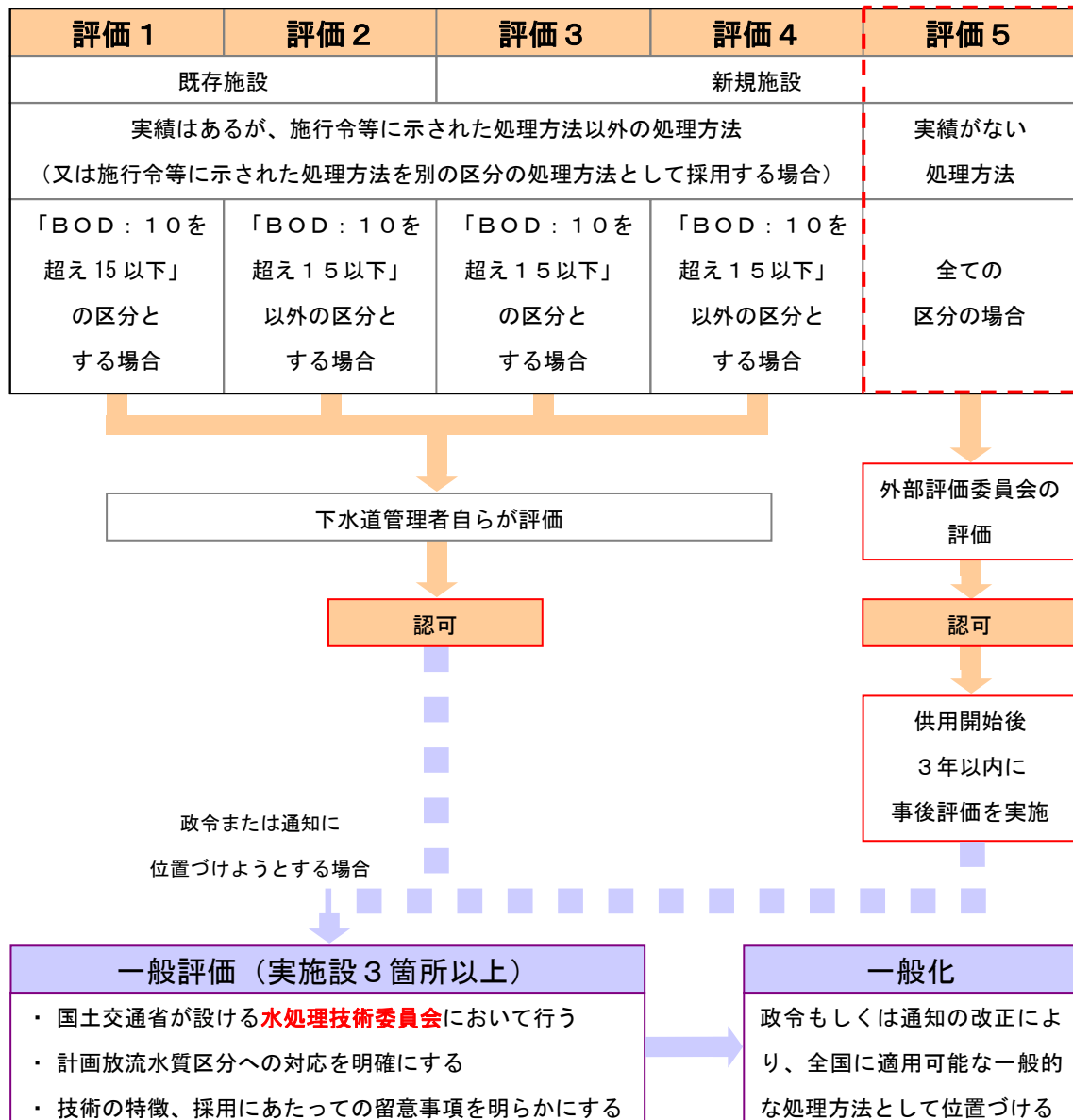


下水処理方法決定までのフロー

平成15年下水道法施行令改正による



評価の分類と一般評価への流れ



一般評価の詳細

調査実施期間		連続する1年間以上
調査実施場所		3箇所以上の実施設
流入水量条件		対象とする全ての施設についての設計値の1/2以上
流入水質条件		当該箇所の水質
流入水質 測定方法	測定頻度	日間平均：月2回以上
	測定項目	水温、pH、BOD、SS 必要に応じてT-N、T-P 国の評価委員会が要求する項目
放流水質 測定方法	測定頻度	日間平均：月2回以上 日間変動：3ヶ月に1回以上
	測定項目	水温、pH、BOD、SS T-N、T-Pを評価する場合は、T-N、T-P 国の評価委員会が要求する項目
評価方法		対象とする全ての施設について、測定した放流水質の日間平均値が設定しようとする計画 放流水質の区分の範囲を超えないこと、かつ、国の評価委員会の評価を受けること

※一般評価の方法の詳細については国の評価委員会の議論を踏まえ定める

施行令および運用通知で位置づけられた処理方法

	計画放流水質			処理方法
	BOD	T-N	T-P	
1	～10	～10	～0.5	嫌気無酸素好気法(有機物および凝集剤を添加、急速ろ過法を併用)
2			0.5～1	循環式硝化脱窒法(有機物および凝集剤を添加、急速ろ過法を併用)
3			1～3	嫌気無酸素好気法(有機物を添加、急速ろ過法を併用)
4				循環式硝化脱窒法(有機物を添加、急速ろ過法を併用)
5		10～20	～1	循環式硝化脱窒法(凝集剤を添加、急速ろ過法を併用)
6			1～3	嫌気無酸素好気法(急速ろ過法を併用)
7				循環式硝化脱窒法(急速ろ過法を併用)
8			～1	嫌気好気活性汚泥法(凝集剤を添加、急速ろ過法を併用)
9			1～3	嫌気好気活性汚泥法(急速ろ過法を併用)
10				標準活性汚泥法(急速ろ過法を併用)
11	10～15	～20	～3	嫌気無酸素好気法
12				循環式硝化脱窒法
13			～3	嫌気好気活性汚泥法
14				標準活性汚泥法

運用通知で位置づけられた処理方法

標準活性汚泥法と同程度

- ・オキシデーションディッチ法
- ・長時間エアレーション法
- ・回分式活性汚泥法
- ・酸素活性汚泥法
- ・好気性ろ床法
- ・接触酸化法

循環式硝化脱窒法と同程度

- ・硝化内生脱窒法
- ・ステップ流入式多段硝化脱窒法
- ・高度処理オキシデーションディッチ法